

消費動向指数(CTI)の取組状況について

令和4年8月10日

総務省統計局

消費動向指数（CTI）の概要

消費動向をマクロ・ミクロの両面から捉える速報性の高い消費指標の体系：消費動向指数（CTI：Consumption Trend Index）を新たに開発し、

- 2018年1月分から参考指標として単身世帯を含む、総世帯の結果を月次で公表開始
- 2021年7月分公表時に、2020年基準改定を実施

世帯消費動向指数 （CTIミクロ）

世帯の平均消費支出額（10大費目別、世帯類型別など）の月次動向を示す統計指標

速報性と精度向上に向けた取組

- ◆ 家計調査（標本規模：二人以上の世帯 約8千、単身世帯 約7百）の結果を、

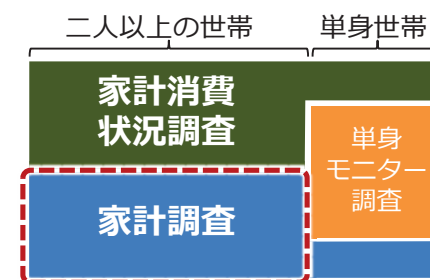
- 家計消費単身モニター調査（標本規模：2千4百）
- 家計消費状況調査（標本規模：約3万）

の結果等と統計的手法によって補正・補強し、標本規模を擬似的に拡大、推計精度を以下のように向上

- 高額かつ低頻度な支出項目について、結果の「ふれ」を抑制し、標準誤差率を改善
- 総世帯や単身世帯の結果について、家計調査で捉えきれない月次の動きを推定

これにより、単身・総世帯を含む月次結果を、調査月の翌々月1週目に公表

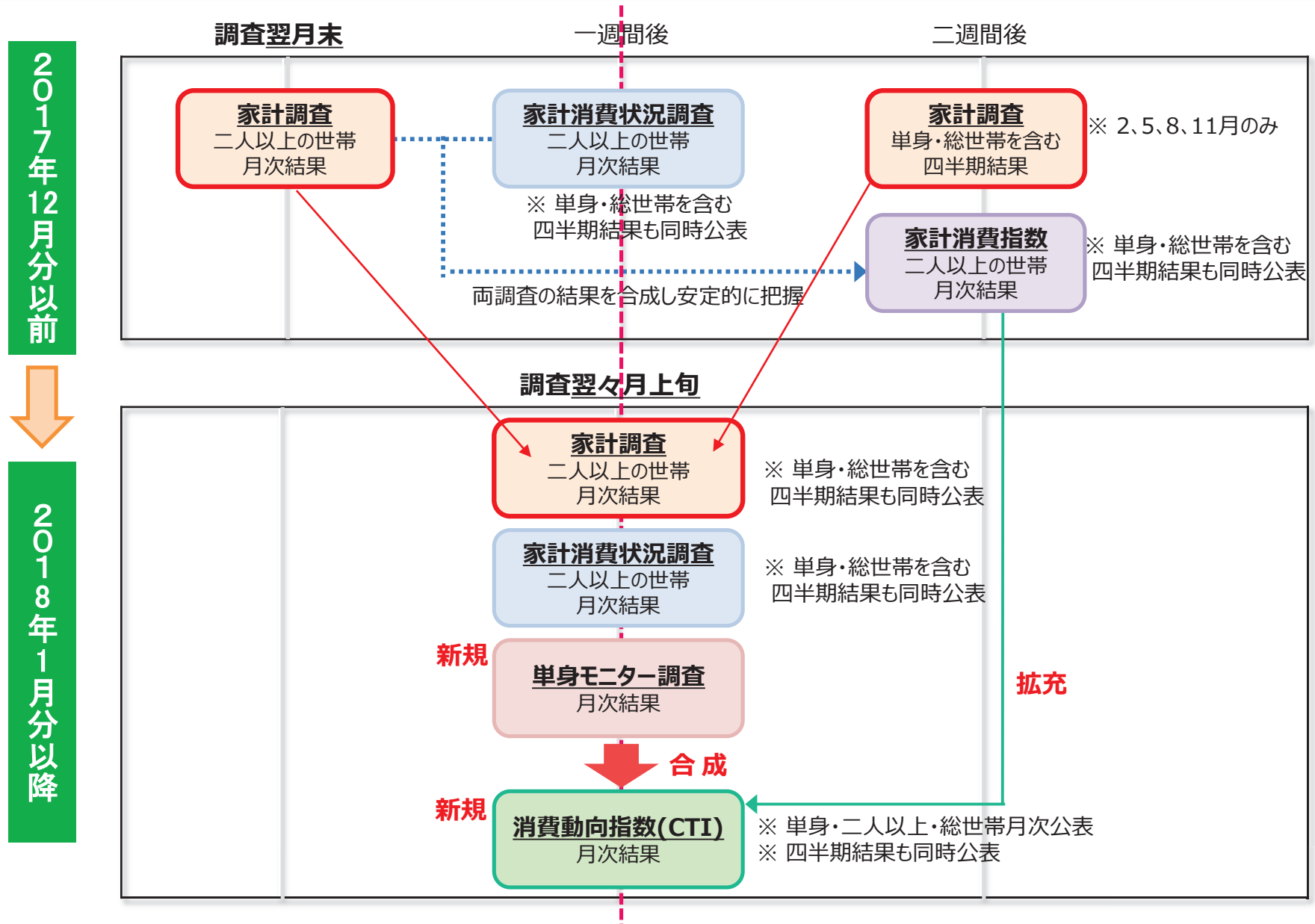
- ◆ 2020年基準改定に合わせて推計方法を改善し、さらなる精度向上を図ったところ。



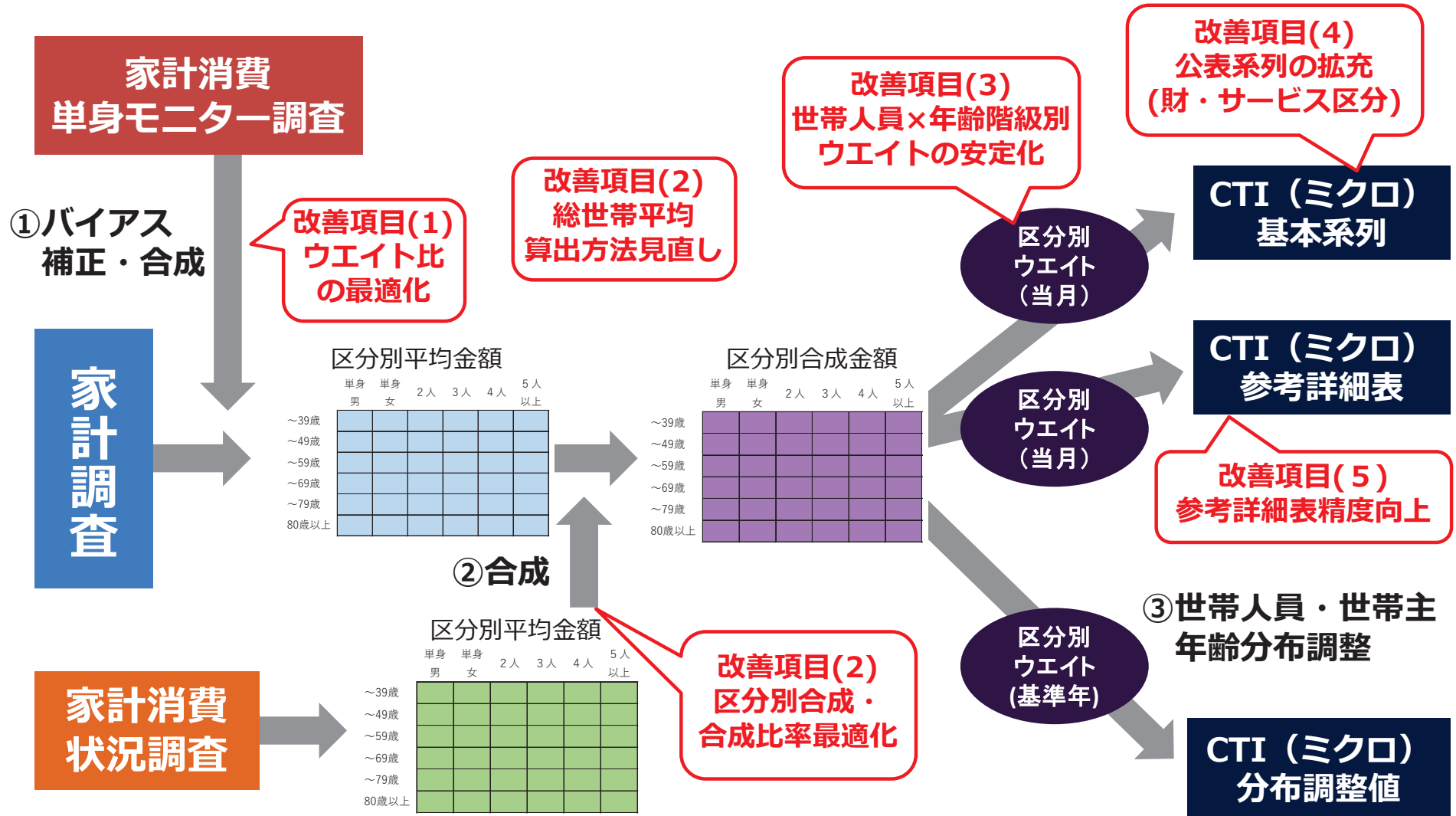
家計調査を補完する消費関連の景気指標としてより有用なものとなるよう、引き続き、取組を進める

家計消費に係る統計の一体的公表

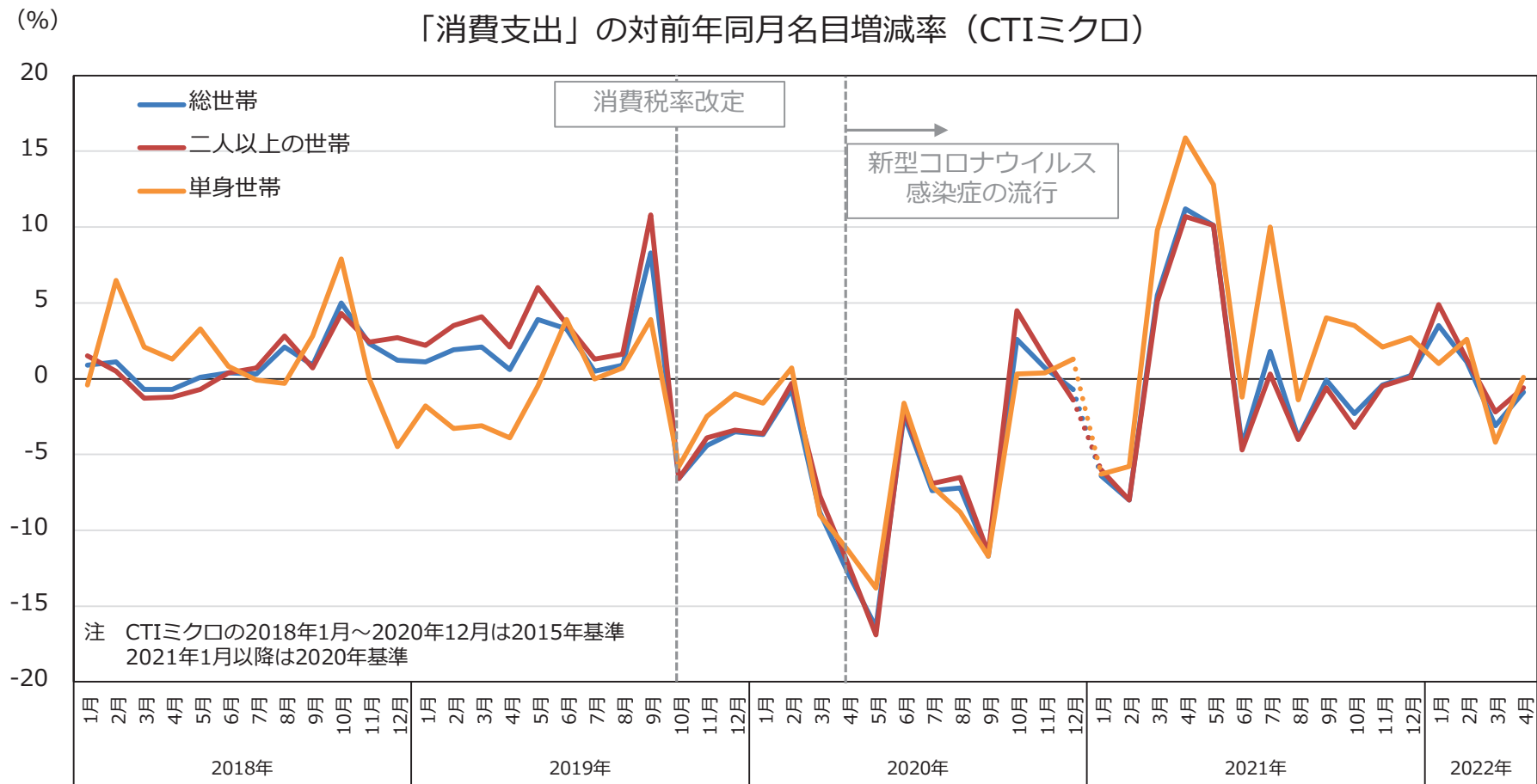
(家計調査に係る公表事項の変更を含む。)



(参考)CTIミクロ 2020年基準改定のポイント



(参考)単身世帯及び総世帯の動きの把握：二人以上の世帯との比較

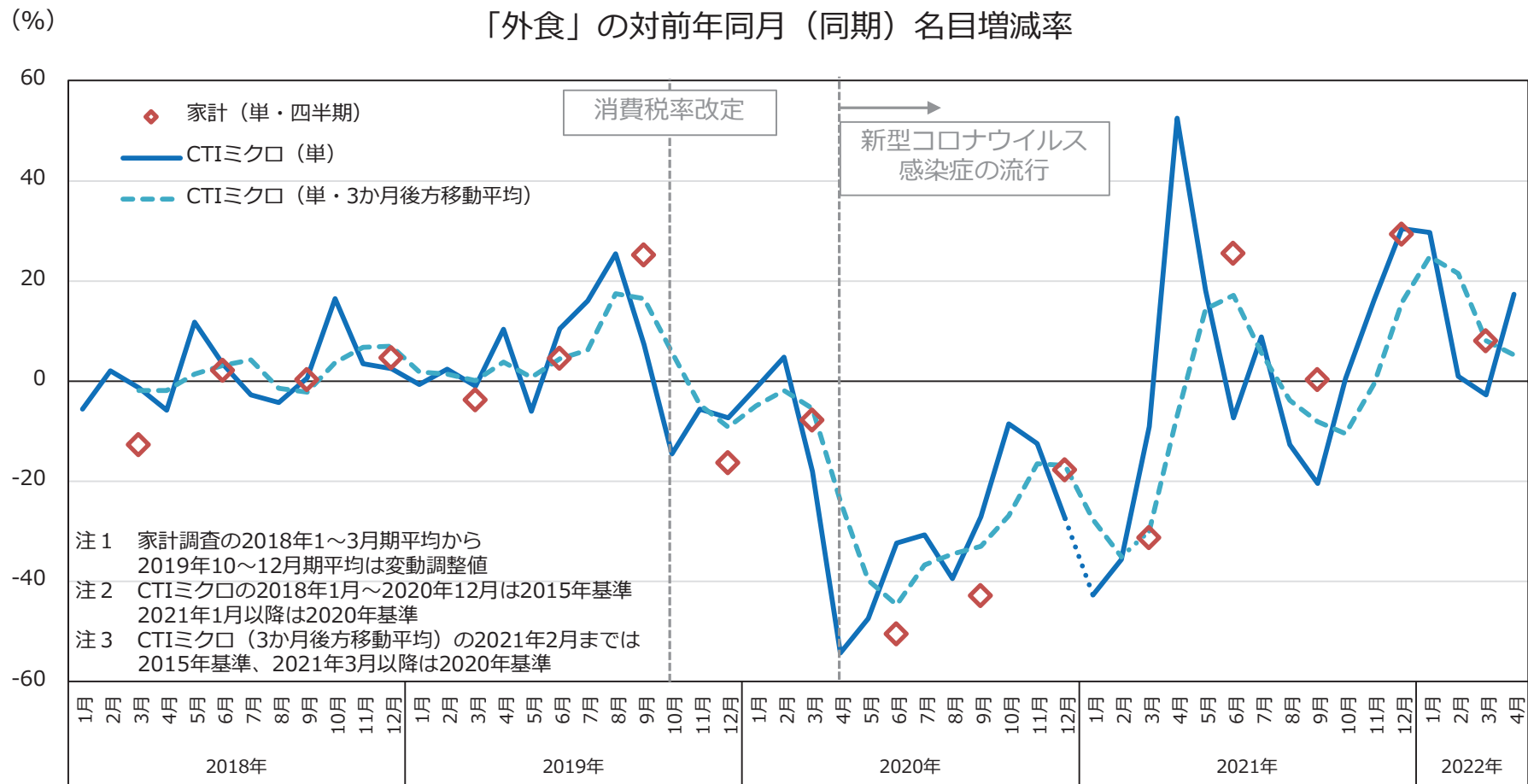


総世帯の動きは、おおむね二人以上の世帯の動きと一致するが、

- 2018年末から2019年前半における、単身世帯の減少傾向
- 2021年以降における、新型コロナウイルス感染症の影響からの反動の動き

など、二人以上の世帯と単身世帯の動きが異なる期間においては、総世帯と二人以上の世帯の動きにも、差異が見られる。

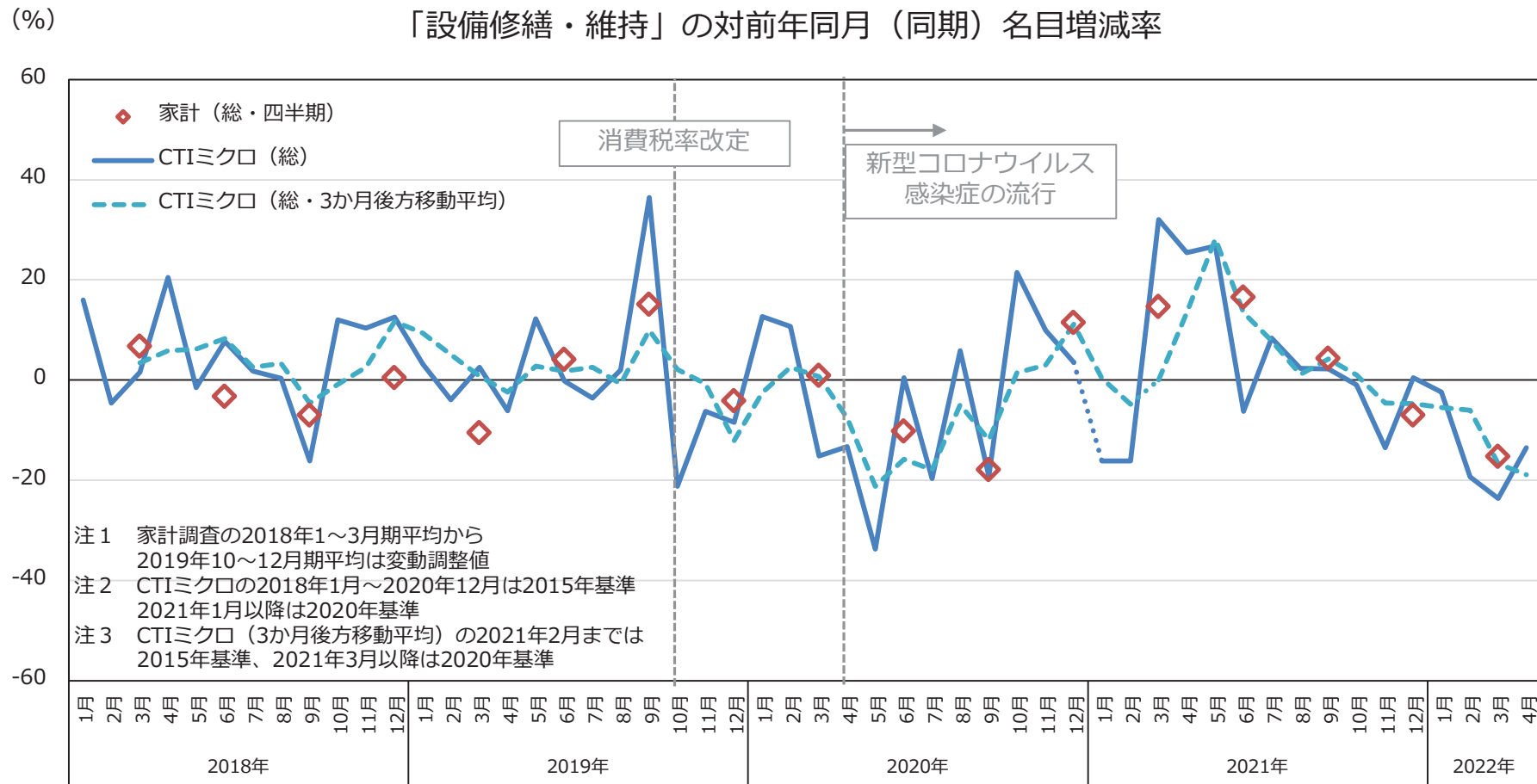
(参考) 単身世帯の動きの把握：外食



四半期ごとの公表である家計調査結果では分からないような動きが、CTIミクロの月次結果から見て取れる。

- 消費税率改定による2019年10月の落ち込みと、そこからの回復
- 緊急事態宣言の発令による2020年4月の大幅な落ち込みと、そこからの回復
- 前年からの反動による2021年4月の大幅な増加

(参考)総世帯の動きの把握：設備修繕・維持



四半期ごとの公表である家計調査結果では分からないような動きが、CTIミクロの月次結果から見て取れる。

- 消費税率改定による2019年10月の落ち込みと、そこからの回復
- 緊急事態宣言発令期間における大幅な落ち込み